

# 太田紙販売 新本社ビルで営業を開始 川向こう両国に創業の地を臨む



滝澤寛美社長

(前頁より) こうした気づきがおフィス全体のおだやかで明るい雰囲気を醸し出し、ある意味で従来型の「紙屋の事務所」の雰囲気とは一線を画すものとなっている。

## プラン当初は「木造建築」の構想も

数年前、滝澤社長が建替えのプランを練っていた当初、「木造建築にしてはどうだろうか」という構想が浮かんでいた。だが、今でこそ木造高層建築が脚光を浴びているものの、着工当時の建築界の共通認識は「木造は6階建て程度が限界」というものだった。かわりに鉄筋コンクリート造となったが、墨田川沿いの軟弱な地盤に数十メートル



オフィスの模様。全体的にSDGsを意識し、緑を多用した色づかい。明るい雰囲気は従来の「紙屋の事務所」のそれとは一線を画している。



日本製紙社有林とAMCEL社植林地



道路沿いは全面ガラス張りで採光よし



国産スギ材を加工した頑丈な机の天板



太田紙販売 100年を見つめる「感謝の壁」

滝澤社長は「ビルのいちばん上の12階から川向こう両国の景色が見えるんです」と教えてくれた。太田紙販売創業の地を百年の時空を超えて見渡し、次の百年の隆盛を見据える力強い柱を、同社はいま、打ち立てた。

「瀧澤」化粧品シリーズも好調推移 この2つの「瀧澤」ブランド化粧品には、その名が示すとおり、滝澤社長の親戚が長野県で営む老舗酒蔵「信州銘醸」の純米吟醸「瀧澤」がふんだんに使用されている。植物由来のCNFと日本酒のコラボという他にない取り合わせの逸品だ。昔から「酒蔵の杜氏の手はずすべしして綺麗」と言われるが、これは酒づくりにも用いられる麹の効能であることが知られて

いる。肌にいい麹の効能に、しっとりするのにべたつかないCNFならではの物性が相まって、たいへん使い心地のよいコスメとなっている。販売チャンネルは、桜井株式会社、そして丸紅フォレストリンクスのオンラインショップで個人向けECネット販売での取り扱いからスタートし、さらにその後、西日本新聞社の通販ショップ「西日本新聞セレクトモール」でも大々的に販売され、好評を博しているところだ。

一緒に置いてある黒耀石だが、これは銘酒「瀧澤」の仕込み水に、信州の和峠周辺の黒耀石を浸み通って湧き出てくる。日本一の超軟水と言われている「黒耀の水」を使用していること由来している。軟水を酒の仕込み水に使うのはたいへんな技術が必要で、それを成し遂げた造り酒屋の老舗のわざが、瀧澤化粧品シリーズに活かしていると

や負のエネルギーの吸収と変換、ストレスや不安からの解放、浄化、潜在能力の開花といった効果が期待できると言われている。

内覧会には参観者105名が訪れた 2月22日に太田紙販売・安田不動産2社合同で挙行了した「新本社ビル内覧会」には105名が訪れた。日本製紙からは野沢徹社長はじめ関係部門多数が参加、安田不動産からも70名が参席したが、「安田不動産さんから内覧会にこんなにスタッフを訪れるのは異例のことなのだそうぞうぞうです。

今回の建替事業には、安田サイドにも思い入れがあったのではないだろうか。「瀧澤社長談」。瀧澤社長自身、このたびの大プロジェクトをはじめとする数年の動きについて「自然な流れで、周りの方々からのご支援やご協力があり、なにもかもがトントン拍子に進んだんです」と感慨深く語る。また、さまざまな話し合いを重ねる中

や負のエネルギーの吸収と変換、ストレスや不安からの解放、浄化、潜在能力の開花といった効果が期待できると言われている。

内覧会には参観者105名が訪れた 2月22日に太田紙販売・安田不動産2社合同で挙行了した「新本社ビル内覧会」には105名が訪れた。日本製紙からは野沢徹社長はじめ関係部門多数が参加、安田不動産からも70名が参席したが、「安田不動産さんから内覧会にこんなにスタッフを訪れるのは異例のことなのだそうぞうぞうです。

今回の建替事業には、安田サイドにも思い入れがあったのではないだろうか。「瀧澤社長談」。瀧澤社長自身、このたびの大プロジェクトをはじめとする数年の動きについて「自然な流れで、周りの方々からのご支援やご協力があり、なにもかもがトントン拍子に進んだんです」と感慨深く語る。また、さまざまな話し合いを重ねる中

や負のエネルギーの吸収と変換、ストレスや不安からの解放、浄化、潜在能力の開花といった効果が期待できると言われている。

### 太田紙販売(株) 会社沿革

(太田紙販売ホームページより)

1921年7月1日 (1921年)	初代安田善次郎の義弟太田弥五郎個人の手によって、東京都本所区東両国2丁目14番地に紙類の販売を目的として合資会社太田商店を創業。
昭和2年4月1日	日本紙業株式会社の販売総代理店となる。
昭和22年5月9日	有限会社太田商店を中央区日本橋馬喰町1丁目4番地に設立。日本紙業、丸三製紙、摂津板紙、田島応用等の代理店へ。
昭和28年6月26日	株式会社太田洋紙店に組織旧商号変更。
昭和39年1月28日	東京都台東区柳橋1丁目31番6号に移転。
昭和51年1月9日	日本紙業株式会社のグループ会社となる。
昭和60年9月1日	太田紙販売株式会社に商号を変更。
平成15年4月1日	日本大昭和板紙株式会社の発足と機を合わせ、日紙興業株式会社と合併し、日本大昭和板紙グループの一員となる。
平成24年10月1日	日本製紙グループの再編に伴い、日本製紙グループの一員へ。
令和元年9月1日	紙化推進室設置、「紙でできることは紙で。」を実践。
令和3年7月1日 (2021年)	創業100年を迎える。
令和6年3月11日	新本社ビルで営業開始。
令和6年4月1日	日本製紙(株)の連結子会社となる。

## 木とともに未来を拓く

日本製紙株式会社

BIOMASS

木とともに未来を拓く総合バイオマス企業として、これまでにない新たな価値を創造し続け、真に豊かな暮らしと文化の発展に貢献します。